

資料室



HOME | 資料室 | 労働組合 | 組織活動 | 人権・社会統治の歴史と労働運動の関わり

労働組合

労働者福祉・共済

一般教養

組織活動

組織運営と法律

労働安全衛生

経営対策活動

教育・宣伝活動

労働時間をめぐる諸問題

教育活動

選挙活動

組合組織（公務員）

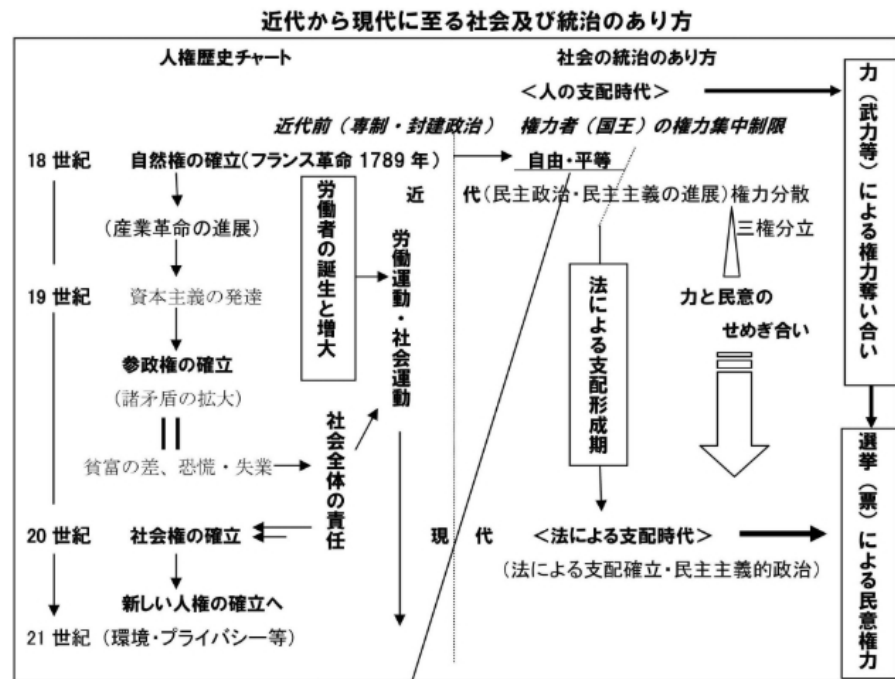
教育カリキュラム

▶ キーワード検索はこちら

人権・社会統治の歴史と労働運動の関わり

人権・社会統治の歴史と労働運動の関わり 3

（日本国憲法と労働組合）



社会契約説に基づく市民国家であるにも係らず、労働者は政治参加できなかったのは、

フランス市民革命は「自由・平等・友愛」を掲げ、ブルジョアジーの指導の下で、貧民・労働者が闘うことで成功した。しかしその革命の成果はブルジョアジーが独占した。資産もなく、教養を習得していない貧民・労働者は社会騒乱の危険分子として敵視されるようになった。貧民・労働者は、デマや扇動で、集団強要・暴動に走る自由破壊の存在となる、として権力を握ったブルジョアジーが貧民・労働者(プロレタリアート)に選挙権を与えなかった。

自由・平等の価値が理解できるのは有産者(財産と教養がある)であり、納税しているブルジョアジーが議院に代表を送る事が出来るとした。

人間の歴史上、生活水準の格差がなかった社会は存在しない。しかし、その格差の決まり方に違いがあった。

前近代社会では、国王を頂点として、貴族、大土地所有者が農民などを搾取していた。身分による生活水準の格差である。

近代社会は、自由・平等を原則とする前近代の「身分と搾取」を否定するところによって成立した。ここでは、身分に縛られず、自由に経済活動(広い意味での労働)を行う。

そこで「能力」「選択」「努力」「運」などにより社会の富の増加への貢献度が異なってくる。この違いによる収入格差である。

資料に関する解説やサイト内ブックマーク、簡単なクイズもできる無料会員登録のお申し込みはこちらになります。

Worker's Library 会員登録
お申し込みはこちらです。

[>>一覧へ戻る](#)

[📄 サイトマップ](#) [📄 このサイトについて](#) [📄 個人情報保護の取組みについて](#)

[📄 ページTOPへ](#)

[TOP page](#)

[資料室](#)

[イベント情報](#)

[講師を探す](#)

[Worker's広場](#)

[関連リンク](#)

Worker's Library 静岡で働く人のための資料閲覧サイト
JAPANESE TRADE UNION COFEDERATION DB SITE **【ワーカーズ・ライブラリー】**

Copyright© WORKER'S LIBRARY All rights reserved.